



感染実験区域が変わりました 収容能力アップ、そして使いやすく

感染実験区域が抱えていた問題点

すべての室が部屋貸しとなっていて管理が利用者に委ねられ、適正な運用や部門としての統一的な運用が妨げられ、非効率的な状態となっていた。



整備前、こんな状態だった部屋が・・・(133室)

具体的には、

- 新規利用教室の参入制限。
- 用途目的に一致しない飼育ラックの使用。
- 感染実験以外の実験の実施。
- 清掃の不備等、動物の飼養及び感染実験の実施上の問題。
- 実験実施者の労働安全衛生上の問題
- メンテナンス不備による室設備の機能不全



安全キャビネットが常備された広い実験室になりました。(133室)



① 共用化を原則とし、部屋貸しはやむを得ず必要な場合に限りしました。

→これによって、4室が共用飼育室に(うち1室は近日整備予定)、3室が共用実験室に生まれ変わりました。

② 全飼育室に、個別換気方式の飼育ラックを設置。感染動物を安全に飼育することができる環境が整いました。

③ 室の清掃、ケージ洗浄・滅菌(P2・P3以外はケージ交換等の飼育管理も)は部門職員が担当することになりました。

④ P3飼育・実験室(140室)では個別換気方式のラックを増設し、最大収容頭数が2倍になりました。



個別換気式(BBH)ラック。BOX前面から取り入れたエアはフィルタユニットの力でBOX奥から吸い込まれ、HEPAフィルターを通して排気される。



感染飼育室の整備



床にエサや動物の糞がこびりついていた部屋が、個別換気方式(BBH)の飼育ボックスを導入した清潔な飼育室に(131、132、136、138室)。



実験室の整備

↓140室(P3飼育・実験室)1基しかなかった個別換気方式架台を2基設置。実験室は時間貸し料金で利用できます。



主な設備

- 安全キャビネット：3基
133・134・140室
- オートクレーブ：3基
洗浄室・139・140室(小型)



↑洗浄室が広く清潔に。